



Title	大阪公衆衛生協会の公益法人としての新たな旅立ち
Author(s)	高鳥毛, 敏雄
Citation	大阪公衆衛生. 2014, 85, p. 3-4
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/78793
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

大阪公衆衛生協会の公益法人としての新たな旅立ち

高鳥毛敏雄

公益財団法人大阪公衆衛生協会 専務理事

関西大学社会安全学部 教授

大阪公衆衛生協会が公益法人となった。そこで「公衆衛生」、中でも「大阪の公衆衛生」の意味合いについて考えてみる機会とする。

近代の公衆衛生は1848年にイギリスのエドウィン・チャドウィックが公衆衛生法を制定したことにより姿を現した。彼がつくろうとした中央集権的、画一的な公衆衛生体制は長くは続かなかった。今日の公衆衛生体制はジョン・シモンが140年前に確立したものである。それは地方自治体を位置づけ、そこに医師職を配置したものであった。地方自治体を位置づけただけではなく市民が主体的に参加する形の公と民が力をあわせた制度であった。わが国はもちろんのこと、イギリスにおいてもジョン・シモンが構想した公衆衛生を20世紀には実現できていない。イギリスでは21世紀に入り、このジョン・シモンの公衆衛生を「パブリックヘルス・イングランド」として具現化する歩み出しをはじめている。

わが国に公衆衛生制度を導入したのは長与専齋である。彼は西洋医学伝来の地である長崎に生まれた。大阪に出てきて適塾に入門し、その後適塾の塾長も務めた。明治期には、岩倉具視の遣欧使節団(1871年12月23日～1873年9月13日)に随行し、欧米諸国を歴訪した。そこで、出発前には想像していなかった誕生したばかりの公衆衛生制度と出会った。それが彼の人生の大きな転機となった。医学教育の現状調査の目的が、公衆衛生制度の研究調査にすり替わった。長与をしても公衆衛生制度は完全に理解できないものであった。「警察組織に当てはめても理解できない、地方自治体だけのものでもない、人々の生活全般に関わる重要な制度でもある。これは東洋には存在しないものである」と後年の彼の随想録「松香私史」の中に記している。わが国に公衆衛生制度を導入するには任せられる適材がいないと考え、自らが衛生局長となり、その導入に力を注いだ。1874年(明治7年)に制定された医制の構成に、公衆衛生制度に関する事項が最初に掲げられているところに長与の公衆衛生を重視していた思いが示されている。

しかし、その後のわが国の公衆衛生制度は長与がイメージしたものとは異なったものとなった。厳格性を持ちながらも、寛容性に富み、現実の公衆衛生問題に対峙する英米の公衆衛生の雰囲気とは異なったものとなってしまった。人々が寄り添う制度として育っていかなかったのである。長与が、1883(明治16年)に「大日本私立衛生会」(現日本公衆衛生協会)を設立した。官治型の公衆衛生を、人々により支えられる公衆衛生制度に転換したいと念願してのものと思われる。

大阪の公衆衛生に目を転じてみる。1923年(大正12年)9月1日に東京エリアは関東大震災に見舞われた。大阪がしばらくの間わが国の最大の都市となった。当時の大阪市は密集した劣悪な生活環境、おびただしい貧困者、多数の病人が存在し、通常の行政対策で健康問題が解決できない状況に陥っていた。人々の健康支援に関わる民間団体が育ってきていた。しかし、劣悪な生活環境と貧困にあえぐ人々の健康問題は民間団体だけでは担えるものではなかった。

大阪市長の池上四郎は東京高等商業学校(現一橋大学)において都市計画を専門とする教授であった関一を助役として招聘した。関一はその後大阪市長に就任した。今日の大阪市の基盤につながる様々な都市政策を大胆に進めた。この当時の大阪市の保健行政も革新的なものであった。当時、大阪市保健部長であった藤原九十郎氏は、国に先駆けて様々な取り組みを行った。彼はロンドンのケンジントンを訪問し、そこでは小児保健所、環境衛生検査所が設けられ、そこに保健師、環境衛生監視員が置かれていた。人々の健康問題の解決の手がかりがここにあると考え、大阪市に是が非でも導入しようと尽力した。民間に任せられていた健康問題の解決を、行政が責任をもって解決しようとする転換期となった。

第2次世界大戦後、進駐した米軍により英米流の公衆衛生教育と制度が導入された。全国の医学部に公衆衛生学講座を設置された。大阪大学においても公衆衛生学講座が設けられ、関悌四郎氏が初代教授に就任した。関教授はイギリスの公衆衛

生制度を主たる研究テーマとして選んだ。大阪公衆衛生協会は、英米風の公衆衛生の思想をもとに1954年（昭和29年）11月に設立されたものと考えられる。「民」の社会であった大阪において、自治体を基盤とした公衆衛生を具現化しようとして設立されたものである。

2014年（平成26年）の大阪の都市環境を見渡すと、昭和29年の大阪公衆衛生協会が設立された頃と大きく変貌している。昭和40年代が大きな節目となり、大阪都市圏域は大阪市、大阪府を遙かに超えたものに拡大したものとなっている。大阪市外にベッドタウンとして千里ニュータウン、泉北ニュータウンが造成され、多くの中間層の人口が大阪市外に流出し、大阪市のスプロール化が一気に進んできている。

関一市長は都市政策を進めるために衣食住が市内だけで貫徹できる都市圏の構築をめざし、「大大阪」の構想の下に周辺町村の合併を行っている。今や、大阪都市圏は大阪府をも超えたものとなっている。大阪府の次元でも都市政策を担うことが難しい時代になっている。JR西日本のドル箱となっているアーバンネットワークの路線図と過密なダイヤがそれらのことを如実に示している。大阪都市圏は民間活動、企業活動により大阪都市圏をつなぎ止めている状況になっている。現代社会は、企業や法人の資本力が地方行政を凌ぐ巨大なものとなっている。以前は駅前には郵便局など公的機関のビルが中心を占めていたが、今や企業や法人の資本によるビルや施設がそびえ立っている。

大阪の公衆衛生の発展を目指して設立された大阪公衆衛生協会を取り巻く状況が当初とはあらゆる面で一変してしまっている。しかしながら、大阪の駅前の絢爛な輝きの下で、大阪の公衆衛生が抱える健康問題がなくなってしまったわけではない。平均寿命は全国の下位に低迷し、結核罹患率は全国最悪、そして貧困、虐待、薬物の問題も深刻化している。HIVの問題も燦々している。むしろ社会から忘れ去られる可能性が出てきている。

全国最悪の罹患率の状況にあるあいりん地区の結核問題もまだ解決ができていない。このまま放置するとむしろ悪化していく可能性が高い。大阪都市圏の拡大、行財政の緊縮化により従来型の公衆衛生対策が行き詰まってきているからである。イギリスの結核問題はロンドンの問題に、米国の結核問題はニューヨークやサンフランシスコの問題として残されているように、わが国の結核問題は最後まで大阪に残りそうである。この事態を見すえて2012年（平成24年）度にWHOが進めるストップ結核パートナーシップの傘下に入り、「ス

トップ結核パートナーシップ関西」の事務局が大阪公衆衛生協会に置かれた。パートナーシップ型の公衆衛生活動はWHOや欧州社会で着想された考え方である。社会のあらゆる組織や人々が参加し、その力を結集して健康問題の解決にあたろうとするタイプの活動である。今や開発途上国だけでなく先進国においても普及してきている。大阪都市圏の拡大、増え続ける不安定就労者の健康問題に対処するには、行政区域を単位とした公衆衛生対策だけでは健康問題の解決が出来ない時代となっている。それに対応した公衆衛生活動を模索していかなければならない。

大阪公衆衛生協会は、2013年10月に公益法人に移行した。行政に支えられてきた協会が、企業や民間団体、一般市民から支持された公衆衛生の団体として脱皮していかざるを得なくなっている。かつて切望してきた市民社会に支えられた公衆衛生を具現化できる可能性が出てきた。しかし、わが国では多くの市民に支えられる公衆衛生の専門団体として発展していくには、まだまだその道は極めて厳しいものがある。

すべての人々の健康を保護し、サポートするのが公衆衛生の使命であるとすれば、大阪公衆衛生協会は、その道程の厳しさを前に足がすくみ、立ち止まることは許されない現実に立たされている。

参考文献

- 1) 橋本正己、公衆衛生現代史論、光生館、1981.
- 2) Department of Health: Healthy lives, healthy people white paper: our strategy for public health in England. London. Department of Health, 2010.
- 3) 多田羅浩三、公衆衛生の思想 歴史からの教訓、医学書院、1999.
- 4) 坂上孝、公衆衛生の誕生 —「大日本私立衛生会」の成立と展開—、経済論叢、156 (4)、p1-27、京都大学経済学会誌、1995.
- 5) 藤原九十郎：都市に必要な保健行政とその改善、大大阪、13 (9)、19-24、1937.
- 6) 高鳥毛敏雄：現代社会における社会医学の立ち位置、社会医学研究、30 (2)、1-6、2013.